【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和3年5月6日(2021.5.6)

【公表番号】特表2020-511548(P2020-511548A)
【公表日】令和2年4月16日(2020.4.16)
【年通号数】公開・登録公報2020-015
【出願番号】特願2020-501424(P2020-501424)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　38/16　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　21/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/08　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/99　　(2017.01)
Ａ６１Ｋ　8/64　　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　35/742　　(2015.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　38/16
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｐ　21/02
Ａ６１Ｐ　43/00　　１２１
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｑ　19/08
Ａ６１Ｋ　8/99
Ａ６１Ｋ　8/64
Ａ６１Ｑ　19/00
Ａ６１Ｋ　35/742

【手続補正書】
【提出日】令和3年3月22日(2021.3.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
美容処置を行う方法において使用するための、速効性神経毒素を含む組成物であって、前記方法が、治療有効量の速効性神経毒素を患者に対し、治療が望まれる部域に投与することを含む、前記組成物。
【請求項２】
前記速効性神経毒素が、ボツリヌス神経毒素血清型Ｅを含む、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
前記治療有効量が、約０．２から約２０ナノグラム（ｎｇ）の範囲の量である、請求項２に記載の組成物。
【請求項４】

前記治療有効量が、約０．７から約１５ｎｇの範囲の量である、請求項３に記載の組成物。
【請求項５】
前記美容処置が、眉間のしわの出現を減少させることを含む、請求項１～４のいずれか１項記載の組成物。
【請求項６】
眉間のしわの出現を減少させる方法において使用するための、眉間のしわを処置するためのボツリヌス神経毒素血清型Ｅを含む組成物であって、前記方法は、約０．７から約１５ｎｇの範囲の量のボツリヌス神経毒素血清型Ｅを眉間複合体に投与することを含む、前記組成物。
【請求項７】
以前の美容処置を修正する方法において使用するための、速効性神経毒素を含む組成物であって、前記方法が、治療有効量の速効性神経毒素を患者に対し、以前に美容処置を受けた部域の近接に投与することを含む、前記組成物。
【請求項８】
前記速効性神経毒素が、ボツリヌス神経毒素血清型Ｅを含む、請求項７に記載の組成物。
【請求項９】
前記治療有効量が、約０．２から約２０ｎｇの範囲の量である、請求項８に記載の組成物。
【請求項１０】
前記治療有効量が、約０．７から約１５ｎｇの範囲の量である、請求項９に記載の組成物。
【請求項１１】
傷跡を最小限にする方法において使用するための、短時間作用性神経毒素を含む組成物であって、前記方法は、治療有効量の短時間作用性神経毒素を患者に対し、創傷の近接に投与することを含み、前記治療有効量は約０．２から約２０ｎｇの範囲の量である、前記組成物。
【請求項１２】
前記短時間作用性神経毒素がボツリヌス神経毒素血清型Ｅを含む、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１３】
前記治療有効量が、約０．２から約２０ｎｇの範囲の量である、請求項１２に記載の組成物。
【請求項１４】
前記治療有効量が、約０．７から約１５ｎｇの範囲の量である、請求項１３に記載の組成物。
【請求項１５】
前記創傷が外科的切開を含む、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１６】
前記外科的切開が美容外科手術の結果である、請求項１５に記載の組成物。
【請求項１７】
前記投与が、注射を含む、請求項１～１６のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１８】
前記方法が、ボツリヌス毒素Ａ型を患者へ投与することをさらに含む、請求項１～１７のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１９】
前記組成物が、さらにボツリヌス毒素Ａ型を含む、請求項１～１８のいずれか１項に記載の組成物。